

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援
R4年度補正予算(EDGE-PRIME Initiative)
実施報告書

「Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)」

活動期間:2023年5月8日～2024年3月31日

I. 活動の概要

Tongaliでは、14大学が連携して高校生等を対象としたアントレプレナーシップ教育を実施した。各大学がこれまでのアントレプレナーシップ教育において積み重ねた経験や知見を生かし、プログラムの設計を行った。結果的に、想定を大幅に上回る参加が得られ、高校生等へのアントレプレナーシップ教育の機会拡大によるその裾野拡大に寄与することができたと考えている。

II. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム形成支援(当初予算)で目指すプラットフォームの姿への本取組による貢献

当初予算で実施する人材育成プログラムのミッションは、“未来に繋がる価値を創り、届けることができるトンガった人材を育成し、東海から世界に向けて、地球・社会や人類の生活を(モノ、心を)豊かにする”である。すなわち、目指す人材育成像は、“未来に繋がる価値を創り、届けることができるトンガった人材”である。

本EDGE-PRIME Initiativeにおいても、未来に繋がる価値を創り、届けることができる“トンガった人材”を育成することへの貢献を目指した取組を進めてきた。この“トンガった人材”というのは、起業家ということではなく、社会に価値を提供できる人材であり、起業しなくとも、多彩な環境で活動できる人材である。そのため、本事業においては、アントレプレナーシップ教育を知るきっかけを作り、好奇心を高めて、起業というキャリアの向き・不向きを確認していくことから始まり、起業家思考の涵養練習を行っていくことにより、アントレプレナーシップや起業という概念の確認、動機・価値観の向上、そして、新しいことを生み出すための考えと行動に繋げてきた。これらは結果的に、起業活動や起業態度の活性が低い群に対して、起業という手段により何かを生み出そうと考える人材である起業家予備軍を増加させていくことに繋がり、本プラットフォームに貢献している。

2. 高校生等へ提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・運営

次世代の主人公となる小中高生たちに対して、“探求から探究へのシフトチェンジ”をキャッチフレーズに、興味・関心を喚起するエントリー、起業家思考の涵養練習を行うベーシック、そして実践を通じた経験学習のアドバンスの3コースを実施した。(下図参照)。①エントリーコースは、アントレプレナーシップ教育を知るきっかけを作り、好奇心を高めて、起業というキャリアの向き・不向きを確認していくステージである。②ベーシックコースは、アントレプレナーシップや起業という概念の確認、動機・価値観の向上、そして、新しいことを生み出すための考えと行動に繋げていく。③アドバンスコースでは、実際に自らのアイデア出しやワーク、事業化検討を行うことにより、連続した試行錯誤を経て、アイデアを醸成させていく経験をここで行う。申請時には、29プログラムの実施、4,000名の小中高生の参加を目標にしていたところ、39プログラム(のべ73プログラム)を実施し、6,417名の小中高生等が参加に至った。



3. 高校生等へ持続的にアントレプレナーシップ教育プログラムを提供する体制の構築

本プログラムを運営していくにあたり、大学だけでなく、自治体や民間企業と連携してプログラムを提供していくことが、その後の定着に向けては重要である。本 PF における実施プログラムのうち、のべ 55 プログラムについて、運営面や広報面において地元自治体や民間企業と連携して実施した。特に、“中高生スペース塾『そら Lab』”においては、広報、プログラム全体、Demo Day まで、名古屋市職員と連携して実施したことから、2024 年度より、名古屋市の予算で拡充して実施することが決定した。単に連携して実施するのではなく、地域の自治体や企業を巻き込んでいくことによって、リソースの提供に繋げていくことが、本来の体制構築に繋がると考えている。今後も、自治体や民間企業、金融機関と締結している連携協定等の活用等、様々な枠組みを活用し、連携体制を強化していきたい。

また、各大学や地域の環境によって連携体制は異なるが、各大学が地域の環境に対応した連携方法を考え、実施していくことによって、下述のプログラム定着に繋がっていくと思われる。持続的に教育プログラムを提供するため、プログラムに積極的に関わる教員や大学生等の協力者を育成し、強固で重層的かつ持続的な体制を構築することも重要である。静岡大学での高校生向け起業家教育の伴走支援者研修(11 名受講)をはじめ、高大連携の枠組みの活用や、起業部部員の活用、学部生向け教育受講者の TA・メンターとしてのプログラムへの参画や受講者による団体の組織等により体制の構築を進めており、7 プログラムにおいて 114 名が協力者向け研修を受講した。

4. 本取組に関する広報・イベント等の実施

アントレプレナーシップ教育・スタートアップに保守的な地域で有名な東海であるので、本プログラムに関する広報は、積極的に実施した。PFのHP (<https://tongali.net/>)、拠点都市のHP (<https://central-startup.jp/>)、各大学のHPや、学生たちの多くが活用しているXやInstagram等のSNSでの発信はもとより、オンラインコンテンツのアーカイブ提供などもWEB上で行った。

また、連携先である各自治体や民間企業の広報手段を活用しての広報や、教育委員会・校長会を通じた各小中高へのプログラムの案内やチラシ配布を実施したほか、各校の連携体制を生かし、地域のケーブルテレビ等における放映も実施した。また、プレスリリース等の結果、取組結果がNHKを始めとした複数メディアに取り上げられた事例もあった。

併せて、より多くの小中高生、保護者の方々に興味・関心をもっていただくための策として、2月16日・17日にJR名古屋駅コンコースでイベントを実施した。Tongaliの紹介をはじめ、EDGE-PRIME予算で実施したプログラムについても学生たちと一緒にブースを作り、事例紹介を実施した。



5. プログラムの定着に向けた取組

PFとしての寄付の募集や、各校における学生の活動支援金の寄付企業の募集に取り組んだほか、多くの自治体と連携してプログラムを実施することで、将来的に運営費が自治体予算へ計上されることを目指して取り組んだ。上述した様に、実際に、中高生スペース塾『そらLab』は2024年度の名古屋市予算に計上され、内容を拡充して実施できることとなった。また、一部プログラムにおいては参加企業から参加費の支払を受けて実施した。併せて、高大接続の取組との連携や、Tongaliのアントレプレナーシップ教育本体に接続していくことにより、モチベーションや常態性を保っていくことに取り組んだ。具体的には、もっと学びたい、起業したいという高校生に対して、Tongaliのアイデアピッチコンテストにチャレンジして、大学生のチームと一緒に、アイデアをブラッシュアップしていく研修等を受講することを可能にした。

以上